

その十

嶺村法子

それぞれのグループで考えた「お願いの言葉」を言いました。

グループごとに前に出て

ちよつと緊張しながら

一生懸命に声を出す

「お兄さんお姉さん、お芋を植えてきてください。お願いします」

「お芋を楽しく植えてきてください」

「苗をそおつと優しく植えてきてください」

「ケガをしないように行ってきてください」

「元気に行ってきてください」

「秋になったらお芋を食べに来てください」

「楽しみに待っています」

この柏学園での宿泊の目的のひとつに、サツマイモの苗植えがあります。秋の芋掘りのために、自分たちの苗だけでなく、幼稚園児の苗も植えてきてくれるのです。

出発の前日、四年生の教室を訪ねた年長児は、

キュウリやナスの苗を植えたときに

私が言った言葉が

トミカラひろば

こんな所で飛び出してくる

お母さんにいつも言われている言葉が

お兄さんお姉さんの苦笑を誘う

四年生の先生が

「私たちが言うより、幼稚園の子にいわれた方

がよく聞くみたい」

と笑いながらおっしゃった

教室を見渡すと

幼稚園時代の懐かしい顔

「『おいもパーティー』覚えてる？」

「覚えてる！」

「蜂蜜とか生クリームとか乗せたよね」

「そう、そう」

四年生を招待して開いた

『おいもパーティー』から四年がたち

今度は君たちが苗植えに行く番

そしてお礼に招待される番になった

「また『おいもパーティー』するから来てね」

「うん！」

翌朝

大きなリュックを背負って

バスに乗り込む君たちが

なんと頼もしく見えたことか

初めて出会った三歳の頃を思い出し

七年の年月が改めて胸に迫る

元気に帰ってきた日

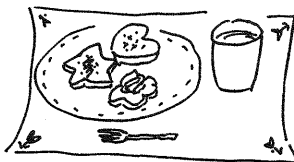
通りすがりの廊下で

「幼稚園の分も植えてきた

よ！」

と言ってくれた弾んだ声が

忘れられない



◆◆◆◆ TO・NI・KARA ひろば ◆◆◆◆

さあ その君たちのために

今年の「おいもパーティー」は

どんな風に進めていこう

あれこれ考えながら

今までの「おいもパーティー」を振り返る

サツマイモをふかす

薄く切って型を抜く

星や花や小鳥やツリーや

いろいろな形のサツマイモに

生クリームや

マーガリンや

チョコレートソースや

蜂蜜を乗せて

その上から

色とりどりのシユガーをトッピング

誰が何を配るとか

私にやらせてくれないとか

大騒ぎの末に準備完了

四年生の手をつなぎ

遊戯室に案内する

一緒にテーブルを囲み

おしゃべりに花が咲く

お礼にと四年生が見せてくれたOHP

『グリーンマンントのピーマン・マン』

学級で取り組んできた成果が

気合いの入った迫真の台詞に表れる

感想を聞かれ

「ぼくはピーマンが嫌いだけど、今度食べてみ

ようと思いました」

ヒロくんが力強い声で宣言した

別の年

◆◆◆◆ TO・MI・KARA ひろば ◆◆◆◆

四年生の歌声に

しんと静まりかえった子どもたち

終わった後は

割れんばかりの大拍手

歌の後のマジックショーでは

「????」

見開いた目が驚きに満ちていた

それからしばらく手品が大はやり

子ども会でも取り組んだ

四年生は

自分よりずっと小さい子どもたちが

一生懸命取り組んだことに

素直な感想を寄せてくれた

「幼稚園なのにお菓子が作れるなんてすごいと

思いました」

「サツマイモが星の形とかになっっていて、かわ



▲「ひとり3こずつだよ」「何の形にしようかな？」

良かったです」

「蜂蜜のお芋が一番おいしかったです」

年長の子どもたちは

自分たちにできる形で

お礼の気持ちを表せたこと

その気持ちを受け止めてくれたことが何よりうれしくて

「喜んでくれてよかったですね」

「おいしいって言ってくれてよかったですね」

「またやりたいね」

と笑顔になる

幼稚園から小学校へ

小学校から幼稚園へ

日常的なかかわりの延長に

互いに育ち合う

“おいもパーティー”の一日がある

小学校の先生たちとは、併設の幼稚園ならではの付き合いがある。職員室や玄関でのちよつとした立ち話にも、幼稚園から送りだした子どものことが話題になる。学期末の納め会や忘年会など、子どもから離れた場所でもあれやこれやと話が出る。一人ひとりの成長を感じるときもあれば、幼稚園時代からの課題が形を変えて現れているのを感じるときもあり、一喜一憂しながらも話は尽きない。

そうした日々の付き合いが、教育活動としての交流を支え、事前の打ち合わせにも反映される。一方が他方に合わせるのではなく、互いにとって貴重な学びとなるような交流をこれからも目指していきたい。

(中央区立月島第一幼稚園)